



2023年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2023/10/6 現在

科目 I

（証券分析とポートフォリオ・マネジメント）

第1問（30点）

I

問1 C 問2 D 問3 A 問4 B 問5 C 問6 A 問7 A 問8 D
問9 A 問10 A

II

問1 D 問2 B 問3 D 問4 C

III

問1 C 問2 B 問3 B 問4 D 問5 C 問6 E

第2問（30点）

I

問1 C 問2 D 問3 C 問4 A 問5 D

II

問1 B 問2 A 問3 B 問4 D 問5 C

III

問1 E 問2 A 問3 C 問4 A 問5 C

第3問（30点）

I

問1 C 問2 D 問3 B 問4 D 問5 B

II

問1 B 問2 E 問3 E 問4 B 問5 B

III

問1 C 問2 E 問3 B 問4 A 問5 D

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第4問 (30 点)

I

問 1 D 問 2 C 問 3 B 問 4 D 問 5 C

II

問 1 A 問 2 C 問 3 B 問 4 D 問 5 C

III

問 1 C 問 2 B 問 3 D 問 4 B 問 5 A

第5問 (30 点)

I

問 1 D 問 2 A 問 3 B 問 4 B 問 5 B

II

問 1 E 問 2 B 問 3 C 問 4 E 問 5 A

III

問 1 A 問 2 D 問 3 A 問 4 A 問 5 A

第6問 (20 点)

I

問 1 D 問 2 C 問 3 D 問 4 B 問 5 A

II

問 1 C 問 2 B 問 3 D 問 4 D 問 5 A

注：第4問 III 問5の答えは 255 万円となる。問題で与えられた選択肢の中ではAの「225 万円」が最も近い数値であり、B～Eは 255 万円からかけ離れているので、選択肢Aを正解とした。

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

2023 年（秋）証券アナリスト 1 次試験

科目 I（証券分析とポートフォリオ・マネジメント）

制度改訂後の問題数・配点は以下の通り。

問題	分 野	2022 年 (春)		2022 年 (秋)		2023 年 (春)		2023 年 (秋)	
第 1 問	日本の株式市場・株式取引	10 問	30 点	10 問	30 点	10 問	30 点	10 問	30 点
	企業のファンダメンタル分析	10 問		10 問		10 問		10 問	
第 2 問	株式分析	15 問 (30 点)		15 問 (30 点)		15 問 (30 点)		15 問 (30 点)	
第 3 問	債券分析	15 問 (30 点)		15 問 (30 点)		15 問 (30 点)		15 問 (30 点)	
第 4 問	デリバティブ分析	15 問 (30 点)		15 問 (30 点)		15 問 (30 点)		15 問 (30 点)	
第 5 問	現代ポートフォリオ理論	15 問 (30 点)		15 問 (30 点)		15 問 (30 点)		15 問 (30 点)	
第 6 問	ポートフォリオ・マネジメント	10 問 (20 点)		10 問 (20 点)		10 問 (20 点)		10 問 (20 点)	
合 計		90 問 (170 点)		90 問 (170 点)		90 問 (170 点)		90 問 (170 点)	

制度改訂後、形式は 4 回とも全く同じで、ほぼ完全に定着したとみてよいだろう。正誤問題は仔細を熟知していなくても常識で判断できるものが増えており、それなりに易化しているようだ。一方、計算問題については非常に簡単な問題と、複雑な条件設定の問題や題意を読み取りにくい問題が混在している印象だ。計算のパターン化が顕著なため、単純な形式通りの問題では差がつかなくなっているのかもしれない。

第 1 問「Ⅰ：日本の証券市場・株式取引」「Ⅱ・Ⅲ：企業のファンダメンタル分析」：ほぼすべて正誤問題。ファンダメンタル分析の計算問題（Ⅲ：問 5・問 6）は非常にやさしい。

第 2 問「株式分析」：問題の途中でシナリオや設定が変更されるなど、ちょっとしたミスを誘発しやすい。選択式なので要注意だろう。

第 3 問「債券分析」：やはりパターン化が顕著なせいか、計算に必要なデータの「虫食い」を増やしたり計算処理を二段階にしたりと、ひと捻り施した問題が多く、時間を食う。

第 4 問「デリバティブ分析」：以前からの傾向だが、Ⅲのオプション戦略の問題は「バーティカル・スプレッド」や「バタフライ」など複雑なポジションを扱ったものが一段と多くなっている。計算にさほど手間取るわけではないが、慣れないとわかりにくい。

第 5 問「現代ポートフォリオ理論」：Ⅰの正誤問題はやさしくなった。Ⅲの計算問題は分散の計算にせよファクタープレミアムの計算にせよ、APT（裁定価格理論）が成立していることを前提とした抽象論と割り切らないと解けない。

第 6 問「ポートフォリオ・マネジメント」：Ⅰの正誤問題は前回に比べればやさしくなった印象だが、旧試験では問われなかった論点ばかりなので、やりにくい分野だろう。Ⅱの要因分析は、問題文を注意深く読まないと間違えやすい。